共同研究グループ活動報告（2025 年度）

〈身体〉とジェンダー

１．講演会・研究会の開催

・2024 年度第 2 回研究会

（2024 年度になるが、昨年度の活動報告に組み入れられなかったので、ここに報告する）

開催日：2025 年 2 月 2 日

会場：オンライン＆対面（みなとみらいキャンパス 17014）

－熊谷謙介（国際日本学部国際文化交流学科）

「植物 x ジェンダー、あるいは〈変態〉するセクシュアリティ」

植物をめぐるジェンダー・セクシュアリティの想像世界について、植物に変異する女性を主人公としたハン・ガン『菜食主義者』を食物連鎖からの脱出として読解し、シュルレアリスムにおける〈植物変態〉表象について、女性アーティストによる植物への「変態」に注目し、最後に大正・昭和戦前期の日本文学にあった植物小説の系譜を、佐藤春夫、尾崎翠の作品から考察した。児童文学や SF、「動物的なもの」「植物的なもの」の対比、また犠牲と贈与のテーマなど、参加者からさまざまなコメントを受けた。

－秋山珠子（外国語学部中国語学科）

「葛藤を丹精する―中国アートコレクティブ CCD ワークステーションの試み」

中国ドキュメンタリーの最新の流れについて、CCD(Caochangdi)ワークステーションというアートコレクティブに焦点を当てて紹介・考察がされた。ワークショップや、村民にカメラを渡して撮影してもらうなど、撮る側と撮られる側の境界が融解するような、他者との協働の実際が示されるとともに、「植物」という観点からは、農務に対する子どもと大人の姿勢の違いや、『真実を探して－ゲッセマネの園』（鄭鶴松など）の植物表象・女性の身体表象を通じての世界認識のありかたが示され、また人々との関わり合いと創造という、より大きな問題が提起された。

・2025 年度第 1 回研究会

開催日：2026 年 1 月 16 日（予定）

会場：オンライン

発表者（所属）：

－鈴木宏枝（外国語学部英語英文学科）

「「オズ」シリーズを考える」

ライマン・フランク・ボームが『オズの魔法使い』（1900）以降、熱心な読者からの声

に押されて書き続けた 14 冊のオズ・ブックスは、一見すると単純な子ども向けのシリーズだが、シリーズ全体を「身体」として有機的にとらえると、アメリカの文化内でのアイコン化、複数の映画化とその影響やアニメ化、『ウィキッド』などのクロスメディアとアダプテーション、作品分析も、サイボーグとしてのブリキの木こり、クイア・スタディーズとの親和、複数のマスキュリニティ、微妙な女性像と参政権運動、アメリカの植民地観など様々な切り口で読むことができ、一般的なかかし、ブリキの木こり、おくびょうライオン、ドロシー以外にもいろいろとユニークな登場人物がいる。本発表では、「オズ」という素材や先行文献を紹介し、叢書発行の検討を行った。

２．シンポジウムの開催

なし

3. 活動内容

〈身体〉とジェンダー研究会は『動物 x ジェンダー―マルチスピーシーズ物語の森へ』を 2024 年 2 月に出版したが、ジェンダーをテーマにした次なる叢書の出版を目指して、学内・学外から多くの新メンバーを集め研究会を組織している。2025 年度は、その後に続く企画を検討していくにあたって研究発表会を行った。

2026 年 1 月 16 日に行われた 2025 年度第 1 回研究会では、鈴木宏枝による発表が行われた（内容については上記参照）。

（文責：熊谷謙介）